

## 令和3年度神奈川県献血推進協議会 開催結果

(令和4年2月14日～3月8日 書面開催)

### 1 議題

令和4年度神奈川県献血推進計画(案) : 承認する19人 / 承認しない0人

上記のとおり、議題は承認されました。

### 2 その他

各委員から、次のとおり御意見、御質問が寄せられました。

いただいた貴重な御意見等は、今後の献血推進の参考とさせていただきます。

#### ○ 資料1について

年齢別で若年者を増やすのは、県立高校や県内にある大学にもっと協力を求めた方がいいのかと思います(学園祭の時に訪問して献血してもらおう)。

地域別の達成率が低いところの対策はどのように考えているのでしょうか?

もし諸事情で献血できない生徒は、手伝い等の社会奉仕活動ポイントを付加するなど、若いうちからの教育が大切と考えました。(神奈川県薬剤師会 唐澤委員)

#### 【神奈川県赤十字血液センター回答】

##### ◆若年層、献血者を増やす為の働きかけについて

血液センターでは、神奈川県と連携し県内の各高校3年生を対象に、献血への理解を深めていただくことを目的に「献血啓発用リーフレット」を配布し、献血思想、普及啓発を進めているところです。令和3年度については、県立・私立高校合わせて243校の生徒61,604名を対象に配付をおこない、多くの学生の皆さまにご協力をいただいているところです。その他、小中高や大学に対し献血セミナー開催の働きかけを行うとともに、学生献血推進連盟等のボランティア団体と協働し、若年層献血者の確保向上を目指しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止等により、学域献血の中止や、啓発セミナーの中止等により、若年層を対象とした献血の機会や啓発の場が失われている状況にあります。

新型コロナウイルスにより新しい生活様式が浸透する中、今後、献血者の確保がより一層難しくなると予想され、オンラインでのセミナーの受入れ、SNS等を活用した若年層に効果的な情報発信のスタイルを積極的に構築し、新しい生活様式に見合う形での若年層への啓発活動を充実できるよう検討してまいります。

◆地域別の達成率が低い地域の対策について

移動採血（献血バス）では、新型コロナウイルスの感染拡大や、緊急事態宣言の発令、まん延防止等重点措置の適用などにより、予定していた企業や大学等での献血中止が相次ぎ、中止の振替先として、特に平日の駅前献血（街頭）が増加し、献血者確保に苦慮している状況です。

赤十字血液センターでは現在、献血 WEB 会員サービス「ラブラッド」を活用した WEB 予約を推奨しており、県内の WEB 会員は、288,256 人になり（R4 年 2 月末現在）、献血者に占める WEB 会員比率は 74%になります。移動採血についても WEB 予約の推進を進めているところであり、WEB 会員の皆様に対して、「お住まいの地域での献血協力をお願いします。」などの情報配信をおこなっています。

また、企業、大学での献血者は、ご自身の会社、学校に献血バスが来た時にのみ、協力いただける方が多く、企業献血の中止や在宅勤務の推奨に伴い献血の機会を失い、献血から遠ざかる方が少なくありません。この方々に、お住まいの地域での献血にご協力をいただけるよう効果的な情報発信や、献血依頼を推進し、各地域での献血者増加に繋げていければと思います。

○ 資料1 表2及び表3について

年度別の献血目標及び実績によると令和2年度は献血者数・献血量共に目標を上回り必要な血液が確保できたこと、また、令和3年度も第3四半期まで経過した時点で献血者数・献血量共に目標の77%超と堅調に推移しており、コロナ禍の中であっても創意工夫の献血推進の取組が功を奏したことは高く評価されるものです。一方で、50代・60代の高齢層の献血比率が近年増加傾向にある中、若年層の比率は減少傾向にあり、特に10代（16歳～19歳）の比率が3%台後半と低くなっていますので、若い方々への献血協力の呼びかけ、アプローチに効果的な取組の推進をお願いいたします。

（神奈川県議会 小林委員）

- 令和3年度においてもコロナ禍にかかわらず献血者数・献血量ともに目標達成が概ねできているという点に安心いたしました。公募面接の際に申しましたが、献血の長期的安定的確保のためには若年層のとり込みが何よりも重要かと思えます。特に複数回献血クラブ「ラブラッド」の Web 会員増強は有益です。献血車よりも様々な点で居心地の良い献血センターに足を運んで頂き、Web 会員になってもらうことが献血の習慣化につながります。

資料3-2において、令和4年度は「春のかながわ献血キャンペーン」を実施しない旨の記載がありますが、特に大学の新生入学生はサークル活動も授業も入学当初にあまりないことから、春が“ファースト献血”に最適かと思えます。コロナ感染拡大収束の目途がつかないためのとりやめであれば仕方ありませんが、「春のキャンペーン」は新規献血とりこみに有効である旨、ご認識頂きたいと思えます。（公募 鈴木委員）

【事務局回答】

これまで神奈川県独自に「春のかながわ献血キャンペーン」を実施しておりましたが、コロナ禍における事業の見直しに伴い、令和4年度につきましては全国統一で実施される「はたちの献血キャンペーン」及び「愛の血液助け合い運動」の重点化を図る方向といたしました。いただきました御意見を踏まえ、春の入学シーズンにも啓発活動を充実できるよう検討してまいります。

- 令和4年度献血推進計画（案）について、コロナ禍による感染症の感染防止に十分ご配慮をされ献血会場の実施運営をされていると思慮。担当職員の方々のご苦勞がこの目標数字において分かりません。（神奈川県赤十字協議会 中嶋委員）
- コロナ禍における献血業務は、より一層の困難に見舞われていると推察します。そんななか関係各位の方々の尽力には頭の下がる思いです。若年層への啓発がますます大事になってくると思われるので、さらに力を入れていただければと思います。（(株) 神奈川新聞社 島山委員）
- 令和2年度の目標達成、3年度も同様の見通し、日々、献血推進の取り組みに直接携わられている皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。  
駅前での献血バスや、SNS等での発信など、折に触れ、目にする事ができました。啓発効果が期待できると思います。私も、大学での講義の際に献血の必要性について解説する等、微力ながら協力させて頂きました。（NPO 法人アドバイザーネットワーク神奈川 藤澤委員）

(50音順、敬称略)